

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
鹿沼市	東大芦地区（酒野谷、下日向、上日向、深岩、笹原田、下沢、引田）	令和3年 3月25日	令和6年 3月31日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	602.7ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	434.9ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	175.7ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	10.9ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	69.3ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5ha
(備考)	

注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

・地区全体で約600haという広大な農地を有する。中心経営体として農業法人をはじめ、大・中規模農業者も揃っており、担い手耕作率は集落ごとにバラつきはあるものの全体で約6割と高い。圃場整備に伴い、集積率8～9割を目指している地区もある。課題としては、いくつかの集落で鳥獣被害を多く受けていることや、現時点では担い手が多いが10年後を考えたときに後継者がいなくなる、担い手の育成等が挙げられる。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・引田、笹原田地区については、現時点で東大芦地区全体と比較すると、担い手への集積率は高くないが、現在圃場整備が進められているところであり、集積目標も80～90%としている。中～大規模経営体もいくつかあることから、整備と併せて地区内における担い手を中心に集積も進めていく。

・酒野谷、上日向、下日向、下沢地区については担い手の耕作率がいずれも約6割前後と高い。10年後を見据えたときに後継者不足という問題は考えられるため、新規就農の受け入れや担い手の育成なども含めた集積・集約化を図っていく。

・深岩地区は農地面積が約28haと東大芦地区内では最も少ない。担い手は大規模法人により耕作がされており、現状の維持を図る。

注1： 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。